

● 医師の裁量発揮する場合は

医師 中西 泉 49

(東京都町田市)

国民皆保険という日本の医療制度は、だれでも一定の医療を受けられるという点では優れているが、問題も多い。医療行為について、保険点数を稼げるからやる、点数にならないものはやらない、という風潮が医師の側にあるからだ。

例えば、最近重要視されている「インフォームド・コンセント」。病状や治療方針を患者さんにきちんと説明し、納得してもらうのは当然のことだが、「点数が稼げない」ということで省略してしまう医師がいる一方、厚生省も「それなら点数をつけましょう」と応じる。

医師として「プロフェッ

ショナル・フリーダム(専門家の自由裁量)を標ぼうしながら、現実には自由どころか「点数の虜とら」になっているケースが少なくないのではないか。

こうした一方、若い医師の中には、外国での難民医療活動に取り組む人も増えている。私が副代表を務める「AMDA(アジア医師連絡協議会)」でも、各国の難民や災害被災者などを対象に緊急医療活動を行っている。

一見、見返りのない行為だが、医師でなければできない未開拓の分野を積極的に切り開いていくのも、プロフェッショナル・フリーダムだ。時には無謀に見えることでも、困っている人に手を差し伸べるといふ医療の原点を忘れない限り、いずれは多くの人たちの支持が得られると思う。

若い医師たちに、医療の将来のために今何をすべきかを、ぜひ真剣に考えてほしい。

いのち
医療を考える